●特集● *Headline*

高速1号羽田線 …… P9

KAWADA REPORT

写真：市立吹田サッカースタジアム（大阪府）

第8期 株主通信

2015年4月1日 >>> 2016年3月31日

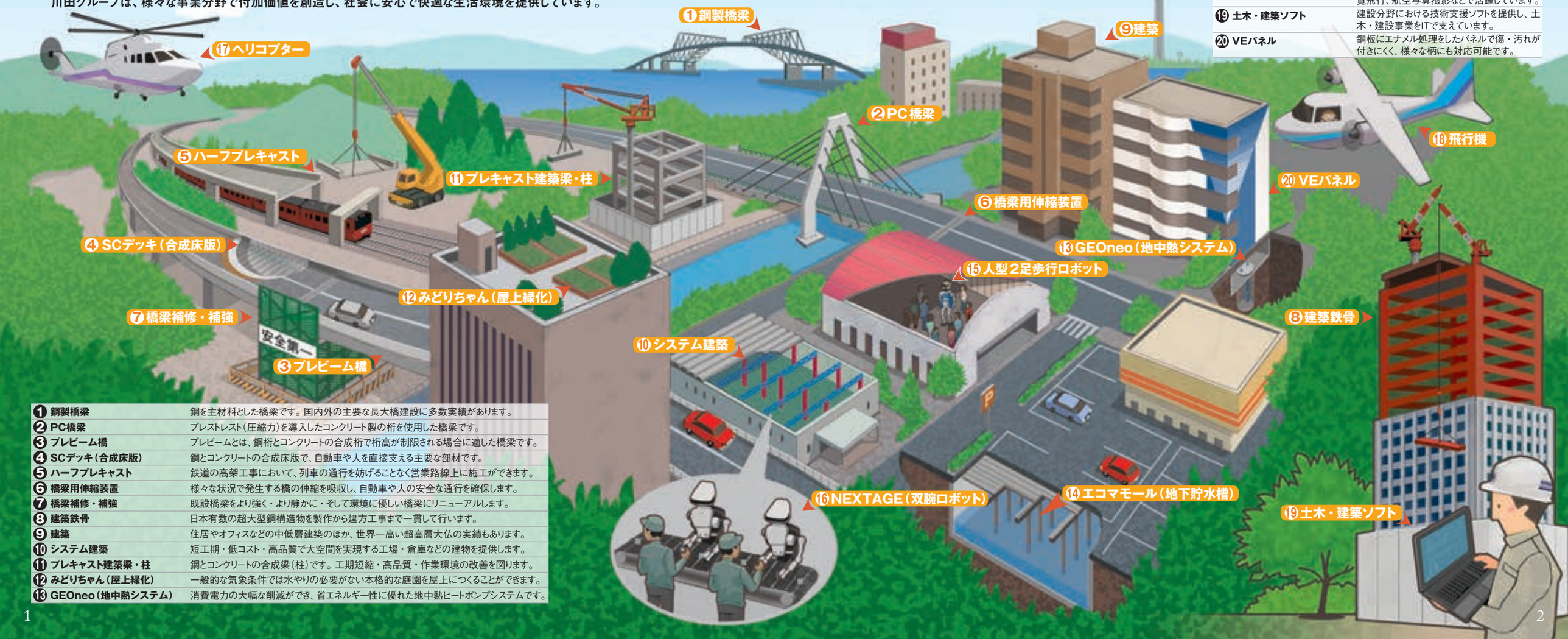
KAWADA technologies

証券コード：3443

事業紹介

幅広い分野に広がる川田グループの ビジネスフィールド

川田グループは、様々な事業分野で付加価値を創造し、社会に安心で快適な生活環境を提供しています。



❶ 鋼製橋梁	鋼を主材料とした橋梁です。国内外の主要な長大橋建設に多数実績があります。
❷ PC橋梁	プレストレスト（圧縮力）を導入したコンクリート製の桁を使用した橋梁です。
❸ プレビーム橋	プレビームとは、鋼桁とコンクリートの合成桁で桁高が制限される場合に適した橋梁です。
❹ SCデッキ（合成床版）	鋼とコンクリートの合成床版で、自動車や人を直接支える主要な部材です。
❺ ハーフプレキャスト	鉄道の高架工事において、列車の通行を妨げることなく営業路線上に施工ができます。
❻ 橋梁用伸縮装置	様々な状況で発生する橋の伸縮を吸収し、自動車や人の安全な通行を確保します。
❼ 橋梁補修・補強	既設橋梁をより強く・より静かに・そして環境に優しい橋梁にリニューアルします。
❽ 建築鉄骨	日本有数の超大型鋼構造物を製作から建方工事まで一貫して行います。
❾ 建築	住居やオフィスなどの中低層建築のほか、世界一高い超高層大仏の実績もあります。
❿ システム建築	短工期・低コスト・高品質で大空間を実現する工場・倉庫などの建物を提供します。
⓫ プレキャスト建築梁・柱	鋼とコンクリートの合成梁（柱）です。工期短縮・高品質・作業環境の改善を図ります。
⓬ みどりちゃん（屋上緑化）	一般的な気象条件では水やりの必要がない本格的な庭園を屋上につくることができます。
⓭ GEOneo（地中熱システム）	消費電力の大幅な削減ができ、省エネルギー性に優れた地中熱ヒートポンプシステムです。
⓮ エコマモール（地下貯水槽）	雨水を一時的に地下に貯留することで、都市環境や人々の生活を水害から守ります。
⓯ 人型2足歩行ロボット	自力で立ち上がる!! 世界トップレベルの2足歩行ヒューマノイドロボットです。
⓰ NEXTAGE（双腕ロボット）	ヒトと共存して働くことのできる製造現場用途向けの作業ロボットです。
⓱ ヘリコプター	報道や救助の現場で活躍中です。伊豆諸島の島々を結ぶ定期便も毎日運行しています。
⓲ 飛行機	東京（調布）と伊豆諸島を結ぶ定期路線や遊覧飛行、航空写真撮影などで活躍しています。
⓳ 土木・建築ソフト	建設分野における技術支援ソフトを提供し、土木・建設事業をITで支えています。
⓴ VEパネル	鋼板にエナメル処理をしたパネルで傷・汚れが付きにくく、様々な柄にも対応可能です。

持続的成長と業界の発展に向けて グループが持つ力を発揮していきます。

株主の皆様には、平素より格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

このたび発生した熊本地震により被災された皆様には、心からお見舞いを申し上げますとともに、被災地の一日も早い復旧をお祈りいたします。

ここではインタビューを通じ、当期（2016年3月期）の営業状況および今後の展開についてご説明させていただきます。ご一読のほどお願い申し上げます。

代表取締役社長
川田忠裕

Q 当期（2016年3月期）の営業状況をお聞かせください。

A 受注高を大きく伸ばす一方、大型案件における工期の長期化や進捗の遅れを受け、売上高は減少。

当社グループを取り巻く事業環境としては、公共投資の発注量に伸びが見られなかったものの、民間投資は引き続き旺盛な需要に支えられ、活況を呈した1年でした。そうした中で当社グループの営業状況は、受注高が1,215億円（前期比9.9%増）と、計画値の1,080億円を大きく上回りましたが、大型案件における工期の長期化や進捗の遅れを受け、売上高は前期を下回り、951億円（同8.6%減）となりました。損益面については、鉄構セグメントにおける工事採算性が向上したことから、大幅な改善を果たしました。

主力の鉄構セグメントは、橋梁事業において首都高大規模更新で最初の工事となる羽田線の更新工事をはじめとする大型案件を受注し、鉄骨事業も渋谷駅再開発プロジェクトなどの首都圏大型案件により、受注が増加しました。売上高については、大型案件の進捗が伸びず減収となる一方、利益は前期の5倍を超える大幅増となりました。これは原価の低減と設計変更の獲得に加え、採算性重視の受注による効果が表れたものです。

土木セグメントは、高速道路会社の大型工事などの受注を積み上げたものの、鉄構セグメントと同様に、大型案件における工事進捗の遅れや工期の長期化を受け、減収となりました。また、売上高減少に伴う間接費の増加等により工事原価の悪化が生じたことから、利益も前期を下回りました。

建築セグメントは、倉庫・工場の建設需要が堅調に推移する中、当社グループのシステム建築への評価が高まり、リピーター顧客からの大型案件の獲得によって、受注・売上とも順調に増加しました。利益は前期を若干下回りましたが、依然高水準を維持しています。

その他は、航空機使用事業の新規機体導入コストが先行し、増収ながら減益となりました。

Q 今期（2017年3月期）の見通しはいかがですか?

A 好況が見込まれる中で、次期繰越高の増加による増収を予想。利益改善に向けて合理化施策を実施。

今期の事業環境は、橋梁事業において政府の方針として公共事業予算の前倒しが打ち出されており、鉄骨事業についても、下期からオリンピック関連の発注が本格化してくると見込まれることから、引き続き堅調に推移すると見ています。ただし今年4月に発生した熊本地震への対応などにより、公共工事の発注に影響が生じる可能性があります。

当社グループでは、大型案件における工期長期化の流れが続くと思われますが、前期からの繰越高が1,214億円であることから、今期は増収になると予想しています。その一方で、需要の高まりにより資材費や労務費、外注費等の原価上昇リスクが高まっており、損益面への影響が予想されます。これを踏まえ、受注時の採算性確保を重視しつつ、工場の生産効率化や業務効率を高める合理化施策を推進し、利益改善に努めていきます。

以上により、今期の受注高は1,080億円を見込み、業績は、売上高1,050億円（当期比10.3%増）、営業利益28億円（同8.3%減）、経常利益25億円（同5.0%減）、親会社株主に帰属する当期純利益20億円（同19.4%増）を予想しています。

Q 今後の成長を見据えた取り組みをご説明願います。

A 技術品質の高い商品の開発・提供を加速させるべく、ロボティクス事業を統合。当グループ保有技術を活用した事業展開を視野。

昨年10月、川田工業株式会社のロボティクス事業をカワダロボティクス株式会社に承継させる事業再編を実施しました。これにより、将来の成長分野である次世代型産業用ロボットの開発・製造をより強化し、販売を拡大していく考えです。また、国が提言するICTを活用した建設現場の生産性向上施策「i-Construction」に対応し、ドローンによる橋梁点検など、ロボティクス事業の技術を応用した新たな事業展開を視野に入れていきます。

さらに建設業界全体の問題である技術者・技能者不足や技術継承への対応については、当社グループの持続的成長と業界の発展を担う重要な課題と認識し、ロボティクス関連技術をはじめ、グループ各社が保有する多様な技術力を活かした取り組みを進めていきます。

Q 株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 今まで以上に社会から必要とされる企業を目指すべく、新たな可能性にチャレンジし、一層の飛躍へ。

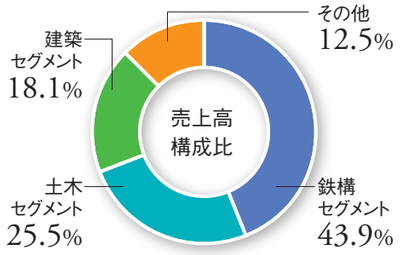
当期の期末配当は、予定通り1株当たり30円とさせていただきました。当期は利益改善を遂げましたが、安定的な財務基盤の確保においては、まだ十分な水準に達していないことから、従来同額としました。一層の業績の向上に努め、財務基盤を拡充し、利益還元水準の回復を目指します。

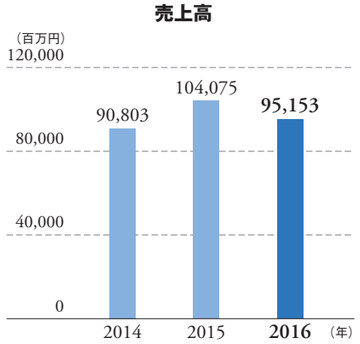
当社グループは、2020年のオリンピック開催に向けて、今後大きな役割を果たしていきます。そして、その先の2022年に迎える創業100周年を見据え、社員が生き生きと働ける会社、今まで以上に社会から必要とされる企業を目指すべく、新たな可能性にチャレンジし、一層の飛躍を遂げてまいります。

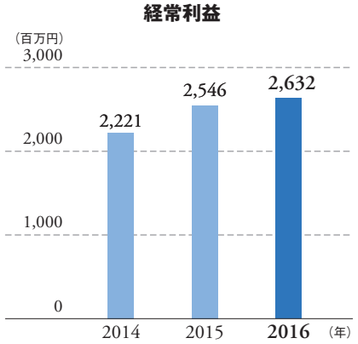
株主の皆様におかれましては、これからも継続的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。

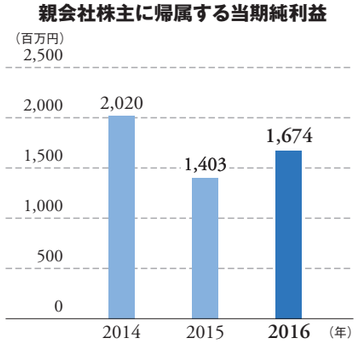
当期の決算ポイント

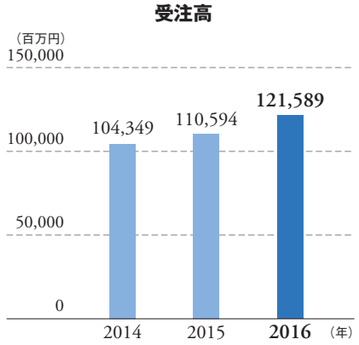
- 鉄構・土木セグメントの工事進捗が伸びず、売上高は減少
- 鉄構セグメントの採算性が改善し、利益は増加
- 鉄構・土木セグメントの大型案件受注により、受注高は増加
- 1株当たり30円の期末配当

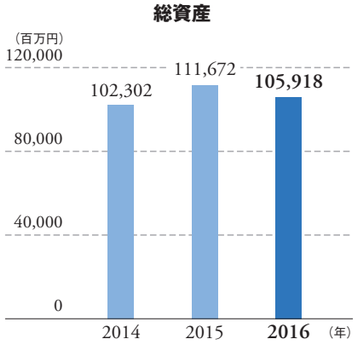


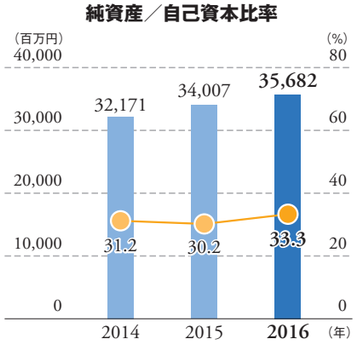






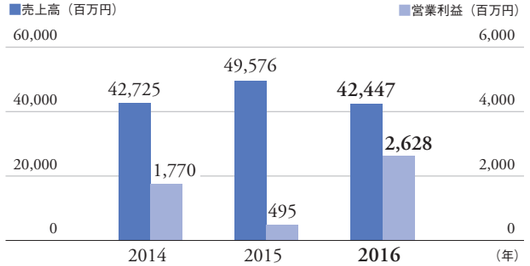






鉄構セグメント

売上高	42,447百万円
営業利益	2,628百万円



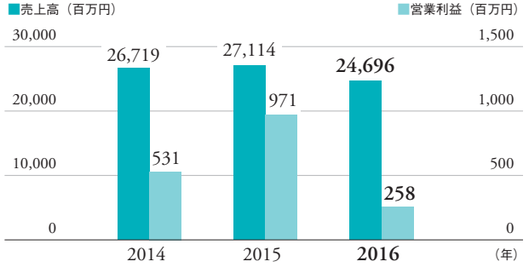
箱根西麓・三島大吊橋橋梁建設工事（静岡県）

橋梁事業において工期が長い工事の進捗が伸びなかったことに加え、鉄骨事業において鉄骨製作が端境期となったことにより、売上高は42,447百万円（前期比14.4%減）となりました。損益面では、原価の低減と設計変更の獲得に粘り強く取り組んだことに加え、高採算工事の進捗が堅調に推移した結果、営業利益は2,628百万円（同430.4%増）と大幅な改善となりました。

主な連結子会社： 川田工業株式会社

土木セグメント

売上高	24,696百万円
営業利益	258百万円



国道45号吉浜道路上部工工事・吉浜高架橋（岩手県）

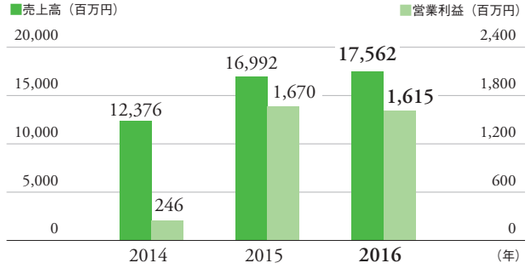
他社施工の橋梁下部工事の遅れ等により大型工事の進捗が伸びず売上高は24,696百万円（前期比8.9%減）となりました。損益面では、設計変更の獲得ができたものの、売上高減少に伴う間接費の増加等により工事原価が悪化したことから、営業利益は258百万円（同73.4%減）となりました。

主な連結子会社： 川田建設株式会社

（注） P7−8のセグメント業績につきましては、セグメント間の内部売上高等を含めて記載しております。

建築セグメント

売上高	17,562百万円
営業利益	1,615百万円



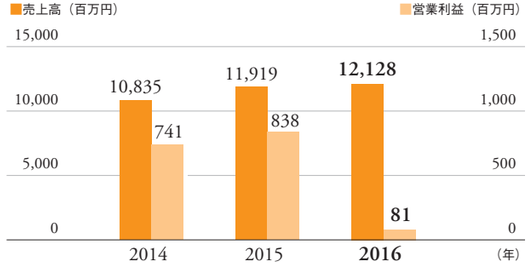
イーライフ共和（株）北部九州物流センター2期増築工事（佐賀県）

システム建築において大型工事の進捗が順調に推移した結果、売上高は17,562百万円（前期比3.4%増）となりました。損益面では、大型工事の増加により施工効率の改善が図れたことで、営業利益は1,615百万円（同3.3%減）となり前期を若干下回ったものの、引き続き高い利益率を保つことができました。

主な連結子会社： 川田工業株式会社

その他

売上高	12,128百万円
営業利益	81百万円



NEXTAGE（2015国際ロボット展）

売上高は12,128百万円（前期比1.8%増）と前期より若干増加しました。損益面では、伸縮装置販売等の減少や航空機使用事業において新型機導入に伴う教育訓練費用の増加により、営業利益は81百万円（同90.2%減）となりました。

主な連結子会社： 川田テクノシステム株式会社
株式会社橋梁メンテナンス
東邦航空株式会社
新中央航空株式会社
カワダロボティクス株式会社

Headline

特集 高速1号羽田線

～東品川桟橋・鮫洲埋立部更新工事～

出典元：首都高速道路株式会社

首都圏の巨大な交通網である首都高速道路。
その大規模更新事業の第一弾となる高速1号羽田線
（東品川桟橋・鮫洲埋立部）の更新工事を、川田工業株式会社が
土木工事と鋼橋工事の異工種JVの一員として受注しました。

事業の目的

高速1号羽田線（東品川桟橋・鮫洲埋立部）は昭和38年の開通から50年が経過しました。日々点検・補修が行われていますが、海上部に建設されているため、過酷な使用状況によりコンクリート剥離や鉄筋の腐食等の損傷が発生しており、長期的な安全性を確保する観点から構造物の大規模更新が必要とされています。

●工事概要

工事名	高速1号羽田線（東品川桟橋･鮫洲埋立部）更新工事
工事場所	東京都品川区東品川2丁目～東京都品川区東大井1丁目
延長	約1.9km
工事期間	2015年8月6日～2025年7月31日
発注者	首都高速道路株式会社
受注者	大林･清水･三井住友･東亜･青木あすなろ･川田･東骨･MMB･宮地 高速1号羽田線（東品川桟橋･鮫洲埋立部） 更新異工種建設共同企業体
請負金額	739億円（税抜）

大規模な更新工事

高速1号羽田線における東品川桟橋及び鮫洲埋立部の上下線（延長約1.9km）を造り替える工事です。本工事期間中は原則、上下線4車線の交通機能を確保するとともに、2020年東京五輪開催時（2020年7月～9月）には損傷した現道での供用は行わないことを条件とした、難度の高い工事になります。

●大規模更新実施イメージ

橋桁と海水面との空間が狭く日常の維持管理が困難な現状よりも、海水面から高い位置に構造物を更新します。

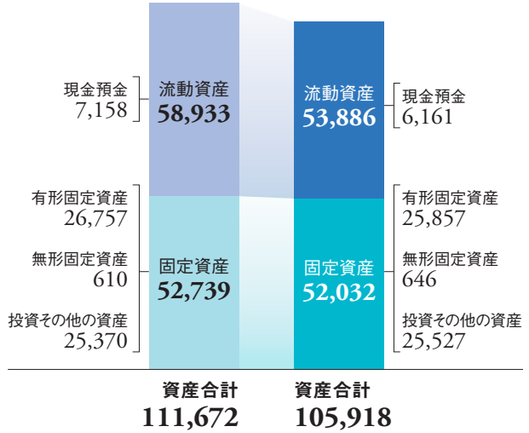
出典元：首都高速道路株式会社

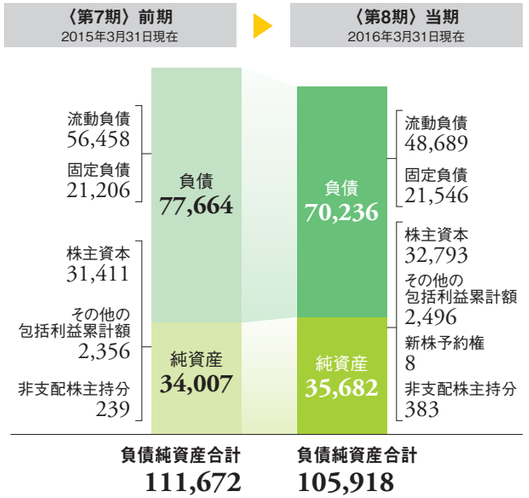
プロジェクト担当部長よりひとこと

本工事は、数年前からテレビや新聞等でも話題となった「首都高速1号羽田線」の更新工事が技術提案審査・価格等交渉方式による設計・施工一括方式で発注され、土木工事と鋼橋工事の異工種JVとして大林組を筆頭にした土木5社・鋼橋4社の9社JVで受注した工事です。工期が約10年と非常に長く、原則上下線4車線を確保しながら施工しなければならない点や東京五輪開催年の前年2019年（平成31年）末に更新線の半分（上り線）を完成させ引き渡すマイルストーンの厳守など、厳しい条件の中、土木工事とスクラムを組んで安全に、確実に工事を完遂したいと考えています。

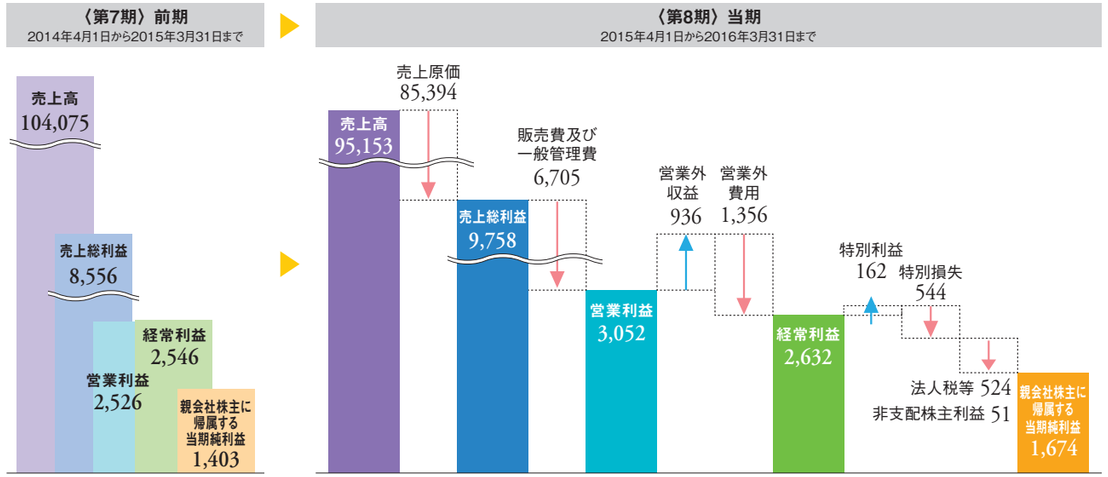
執行役員
鋼構造事業部プロジェクト
担当部長（高速1号羽田線）
小玉 芳文

連結貸借対照表の概要 （単位：百万円）



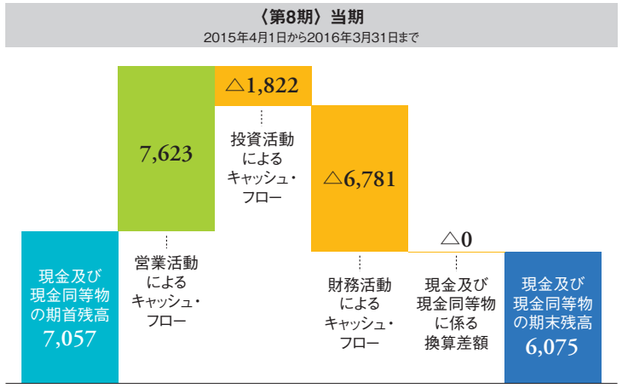


連結損益計算書の概要 （単位：百万円）



連結キャッシュ・フロー計算書の概要 （単位：百万円）

（注）△印は、マイナスを示しています。



● 営業活動によるキャッシュ・フロー

7,623百万円の資金増加（前連結会計年度は1,457百万円の資金減少）となりました。これは主に、売上債権の減少によるものであります。

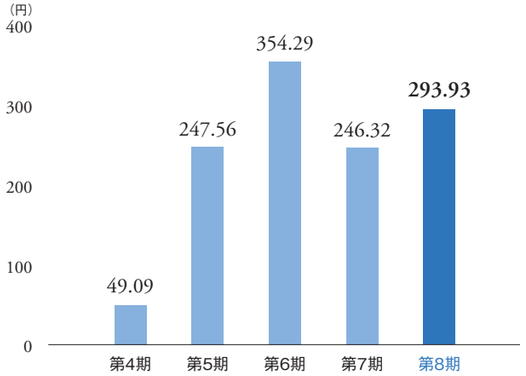
● 投資活動によるキャッシュ・フロー

1,822百万円の資金減少（前連結会計年度は1,190百万円の資金減少）となりました。これは主に、設備投資による固定資産の取得等によるものであります。

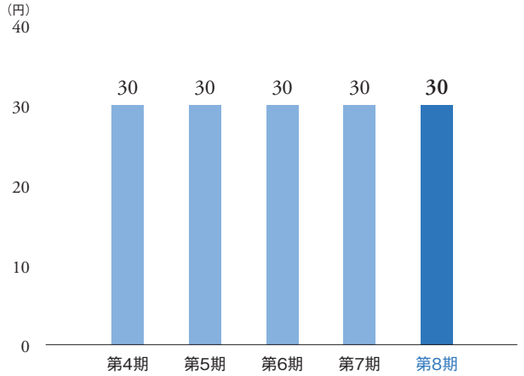
● 財務活動によるキャッシュ・フロー

6,781百万円の資金減少（前連結会計年度は4,086百万円の資金増加）となりました。これは主に、借入金の返済によるものであります。

1株当たり当期純利益



配当



会社の概要 (2016年3月31日現在)

商号	川田テクノロジーズ株式会社 KAWADA TECHNOLOGIES, INC.
事業内容	鋼製・PC 橋梁及び建築鉄骨の設計・製作・架設・据付、一般建築・システム建築、土木建設関連ソフトウェア開発を営むグループ企業の経営計画・管理並びにそれらに附帯する業務
設立	2009年2月
所在地	【東京本社】 〒114-8563 東京都北区滝野川一丁目3番11号 TEL：03-3915-7722 【富山本社】 〒939-1593 富山県南砺市苗島4610番地 TEL：0763-22-8822
資本金	50億円
決算期	3月31日
従業員数	50名（連結2,165名）

代表者及び役員 (2016年6月29日定時株主総会終了時点)

代表取締役社長	川田 忠裕	常勤監査役	阿久津政俊
常務取締役	渡邉 敏	監査役	岡田 敏成
常務取締役	越後 滋	監査役（社外）	高木 武彦
取締役	山本 隆夫	監査役（社外）	髙木 繁雄
取締役	川田 忠樹		
取締役（社外）	山川 隆久		
取締役（社外）	高桑 幸一		

川田グループの全体像

株式の状況 (2016年3月31日現在)

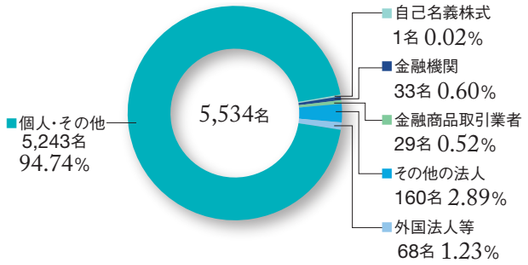
発行可能株式総数	20,000,000株
発行済株式の総数	5,781,070株
株主数	5,534名

大株主

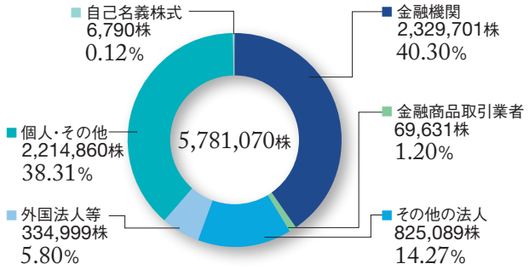
株主名	持株数（千株）	持株比率（%）
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	928	16.08
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	304	5.28
株式会社北陸銀行	284	4.93
川田テクノロジーズ社員持株会	270	4.69
株式会社三菱東京UFJ銀行	265	4.60
川田工業協力会持株会	191	3.31
富士前商事株式会社	141	2.46
川田忠樹	115	2.00
三菱UFJ信託銀行株式会社	100	1.73
新日鐵住金株式会社	93	1.62

※持株比率は自己株式（6,790株）を控除して計算しております。

株主数構成比



株式数構成比



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL：0120-232-711（フリーダイヤル）
上場証券取引所	東京証券取引所（市場第一部）
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL　http://www.kawada.jp （ただし、電子公告によることができない事故、そのほかのやむを得ない事由が生じた時は、日本経済新聞に公告いたします。）

（ご注意）

1. 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求そのほか各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合わせください。株主名簿管理人（三菱UFJ 信託銀行）ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ 信託銀行が口座管理機関となっておりますので、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ 信託銀行）にお問合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取り次ぎいたします。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。